

## 第161回（平成22年度第10回）理事会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時： 平成23年4月13日（水）19：00～20：55
2. 場 所： 横浜市健康福祉総合センター9階小会議室902（横浜市中区桜木町1-1）
3. 出席理事：（副会長）佐藤 嘉彦、山田 力、片 忠夫  
（専務理事）上田 英之  
（常務理事）清水 忠、木村 徳善、徳本 進、吉岡 去私  
（理事）金子 理人、国島みどり、青木 文明、岡田 良平、本田 衛義、  
高柴 一彦、小池 光、佐々木生道、中村 浩人、森本 珠水、  
黒川 正孝、和田 幸一  
欠席理事：（会 長）河野 太郎  
（理 事）伊藤 敏光、吉野 大成、大澤 康之
4. 出席監事： 内海 雄三、井上 敏郎
5. 議長選出： 上田 英之専務理事を指名
6. 議事録署名人選出：小池 光理事、和田 幸一理事を選出
7. 書 記： 宮崎 弘一広報委員を指名
8. 議 事

議事に先立って、片副会長から次のとおり開会の挨拶があった。

理事会の会場を移し、集まりがよいので関心をしているのですが、震災があって、大変な状況になっていますが、今シーズンの締めと来季の計画が始まりますので、各部門の中でよく議論して進めていただきたいと思います。

### 1) 教育本部

#### (1) 報告事項

木村本部長から次の事項について報告があり、了承された。

##### 【SAK関係】

教育部会を3月26日（土）と4月9日に開催。今年度の行事報告と決算及び事業計画についてが主な議題となった。行事報告については少しずつ提出されてきており、決算についても8割程度完成しており、今週土曜日にこの決算とともに来年度の予算についても進めたいと考えている。

##### 【SAJ・南関東ブロック関係】

#### ① 48回全日本スキー技術選手権大会 3月7日（月）～12日（土）

（12日（土）以降の競技は東日本大震災により中止となった。）

以下、中村理事から報告。

選手順位 男子 108位 村田雄介（準決勝進出）、133位 翠川和也（以下本選進出）、  
166位 吉田陽平、同じく166位 小山恵一、172位 小林伊芙樹  
女子 62位 小林育美（準決勝進出）、69位 武井知栄（本選進出）

予選不通過（予選順位） 男子134位 荒井拓磨、154位 中村浩章、182位 勝木将利  
女子 62位 諏訪部隣、97位 高島亜也子、102位 八木翔子

神奈川県の選手は全国レベルの予選通過レベルにあるが、上位選手との技術レベルの差はかなり大きいので、今後はトレーニング方法等が課題と思われる。

これに加えて、木村教育本部長から合宿、外部講師の依頼など従来と異なる対応をしてきました。

結果このようになっており、来年度に向けて総括しながら、より効果を発揮していかなければならないとの話があった。

② SAJ教育本部スノーボード部会議 4月1日(金)

議題：次年度の事業計画と規約規定改正について  
小池理事より以下のとおり報告があった。

主な内容は、従来行われていた中央研修会とデモ合宿をスキーの中央研修会とデモ合宿に合流させて行うことを提案する予定。指導員検定会についてもスキーのそれと合流させ、従来2会場でおこなわれていたものを3会場での開催を検討。デモ選考会は技術選の翌日に設定することになった。スキー大学については、1会場はスキーと同じ会場で行い、2会場目は参加者希望者が少ないため中止していたが、次年度は単独で行う方向で調整中。参加者については広く一般から募集して、合わせて規約規定を改正することになる。プライズテストも開催する予定である。

③ 東日本大震災により、以下の行事の中止が報告された。

- ・ 3/17 第8回全国スノーボード技術選手権大会
- ・ 3/26～27 クロスカントリー指導者・検定員検定会及び研修会
- ・ 3/26～27 南関東シニアスキー技術選手権大会
- ・ 4/1～3・4/7～9 公認パトロール研修会 4/2～3 全国パトロール技術競技大会
- ・ 4/2～9 国際スキーパトロール連盟総会 4/6～8 SAJデモンストレーター合宿
- ・ 4/6～8 SAJスノーボードデモンストレーター合宿
- ・ 4/15～17 バックカントリー講習会

【行事予定】

- ・ SAJ関係 4/15～17 SAJ教育本部会議(東京にて開催)

(2) 審議事項

① 東日本大震災による行事開催、審判派遣が中止について

木村本部長より、以下の行事開催、審判派遣が中止となった旨の提案がなされ、承認された。五竜皿行事(環富士) 3/19～20、車山V及び尾瀬岩鞍行事 3/26～27  
南関東シニアスキー技術選手権大会 3/26～27(中止に伴う審判派遣の中止)

② 来年度の千葉・神奈川スキー技術選手権大会(戸隠スキー場)の会期について

木村本部長より、千葉・神奈川スキー技術選手権大会(戸隠スキー場)の開催予定は2012年1月28日～29日の提案がなされ、承認された。

③ 車山V及び岩鞍行事参加申込者で指導員・検定員資格期限対象者の特例処置について

木村本部長より、SAJ及び南関東ブロック協議会に合わせて対応をする旨の提案がなされ、承認された。

2) 競技本部

(1) 報告事項

吉岡競技本部長から、次の事項について報告があり、了承された。

① スノーボードジュニア世界選手権大会(会期:2011.3/28～4/4 会場:イタリア)  
においてハーフパイプの種目で本多未沙選手(スノーヴァ溝ノロ R-246)が4位になった。

② 東日本大震災による行事開催中止について

神奈川県スキー選手権大会が東日本大震災の影響により中止とした。それ以降、鹿沢での大会も中止となった。

さらに、3月31日に常務会があり、ジュニアの大会派遣についても一時中止としていたが、ジュニアの将来のことも考えた結果、B級大会など一部の競技の自粛を解除することにした。

佐藤副会長:中止となった会場の費用負担についてどのようになっているか。

吉岡本部長:上越国際は20万円の請求書が届いている。鹿沢は請求がないので特に負担はない。

佐藤副会長：20万円が適正かどうか。他の団体の事例があるのか調べ、我々の世間相場を知っておく必要がある。

この件について、しばらくの間、意見交換が行われ、最後に上田専務理事より、今後については支払いをする前に相談をするようお願いすることで、終了し了解を得た。

## (2) 審議事項

吉岡競技本部長から、次の事項について説明があり、了承された。

### ① 2011年度県体協競技力向上ジュニア育成事業について

吉岡本部長より、ジュニアの育成計画についてアルペン委員会から計画書の提案がなされ、その主旨は、強化指定選手が20数名いるが、それを7名に絞り込み、集中的に強化育成をしていくことの提案がなされ、以下の質疑応答後、承認された。

上田専務理事：強化期間と予算についてどのようになっているか。

吉岡本部長：強化期間については2011年5月から2012年3月末まで、実施予算は148万8千円となっており、体協補助金の130万円について体協は了解済みである。

上田専務理事：体協の予算分は確定していて、この計画案にもとづき、全予算をこの理事会で了承を得たいという考えか。

片副会長：体協との間には指導一貫体制は既に出来上がっており、それを基にしてこの育成計画を来年度に実施していくものと解釈している。

佐藤副会長：この計画はそれに加え、人数を絞って、資源を集中させ、実施していくものと考え。

清水常務理事：20数名から7名に絞り込む選定基準はどのようになっているのか。もう既に選考を終えているのか。明確な基準を作成してもらいたい。

吉岡本部長：選考はこれからであり、選考基準についても本理事会で了承を得た上で、今月末にも行いたい。

佐藤副会長：本部内でよく議論して行うべきであったのではないか。進行方法、選手強化の連盟の立場、予算の増減に伴う内容の精査を競技本部で共有して、そのうえで審議事項としてこの場に提案してもらいたかった。また、選考方法についてだれもが納得いく選考方法にしてもらいたい。

森本理事：体協補助金ができる条件として、小中学生に限るとしているのか、それとも県として未来に羽ばたく選手を育てるならば、小中学生に限定してチルドレンといった小さいカテゴリーを狙っていきたいということなのか。

吉岡本部長：県では競技力向上を目的にしているので枠はない。県連としては将来ある選手を育てていきたいということで強化していきたい。

森本理事：体協の補助金を有効に活用するため、もう一度どのようにすべきか考えていただくこと、そして教育本部の行事との関連性からも、指導システムの構築と環境整備をしっかりとお願いしたい。

上田専務理事：選手を選定する過程はいつか。

吉岡本部長：5月の理事会に審議事項としてかける予定である。

上田専務理事：選手の選定過程については明確にお願いしたい。

## 3) 総務本部

### (1) 報告事項

#### ① 慶弔関係

徳本本部長から、次のとおり報告があり、了承された。

4/8 群馬県連会長 青木 巖氏 逝去 生花及び弔電

#### ② 資金運用状況

金子理事から、21年度3月末現預金残高と22年度3月末現預金残高の差異について未だSA

J関係のBC検定と指導員関連の支払い、雑誌関係、及び各県連で受付けた各種行事関連の返金等  
があつて差異が約180万円となっていることが説明された。また、これには義援金も含まれてい  
ることが追加説明された。

③ 登録状況

本多理事から、別添資料のとおり報告があつた。上田専務理事から、突然止まって、頭打ちとな  
っていることが指摘された。また、団体登録において昨年度より10団体のクラブ減少している  
との指摘があり、登録維持について、フォローするようにとの要請があり、了承された。

④ HC委員会

国島理事から、車山行事スキー教室の中止となり、totoへ行事廃止届を提出したとの報告が  
あつた。totoの助成金については五竜行事と車山行事の2行事で申請を行つて、1092千  
円の助成交付決定を受けていた。既に入金済みの交付額が50万円あり、このうち6万円をtoto  
に返金予定。また、バスツアー等の参加費の返金方法等の対応も含めて来週19日に第17  
回の委員会を開催する予定となっていることが報告され、了承された。

⑤ 広報委員会

青木理事から、まだ決定ではないが、ホームページ上でSAKだより6月号を発行する予定。ま  
た、スキークラフィックへの掲載記事については県連の大震災の被災者へのお見舞いのメッセージ  
と義援金の受付について今月10日の発行号までは掲載される旨、報告があり、了承された。

⑥ 新公益法人移行の税理士事務所との打ち合わせについて

徳本本部長から新公益法人移行の税理士事務所との打ち合わせを3月24日（木）に開催。朝日  
税理士法人に公益認定業務支援を依頼。本来1年かかる実施事項を8カ月に圧縮して行い、認定は  
2012年3月末を予定。月1回ミーティングを実施し、申請書類作成確認、課題への対応、対策  
等を行う。見積額は税込787,500円。今後、契約の締結を進めることの報告があり、了承さ  
れた。

⑦ 規約・規程委員会の開催について

高柴理事から規約・規程委員会を4月6日に開催（労働プラザ）。引き続き4月26日、5月2  
5日の計3回を経て答申を作成し、6月の理事会へ提出予定との報告があり、了承された。

⑧ 平成23～24年度評議員及び役選委員の推薦依頼について

徳本本部長より平成23～24年度評議員及び役選委員の推薦依頼を3月16日発送。提出期限  
は4月25日との報告があり、了承された。

⑨ 行手中止による参加費の返金について

徳本本部長より行手中止による参加費の返金作業を4月2日（土）に行った。（事務所受付分）  
教育本部関係分 環富士8件、車山35件、岩鞍4件については実施済み。競技本部関係分は177  
件は返金方法を確認している。総務本部関係分ではHC行事8件について、HC委員会にて対応。  
電子申込関係分はデジサーフに委託することの報告があり、了承された。

⑩ 東北地方太平洋沖地震の義援金について

徳本本部長より東北地方太平洋沖地震の義援金一覧をホームページへアップした。4月8日まで  
であるが、義援金は22件、425,229円となっているとの報告があり、了承された。

(2) 審議事項

① 平成23年度執行方針（案）について

上田専務理事より、執行方針（案）に基づき、次のとおり説明提案がなされ、承認された。

目標は広く神奈川県民の皆さんへ広くスノースポーツの感動を伝えること。東日本大震災（東北  
地方太平洋沖地震）の傷跡も癒えない状況の中、スノースポーツの素晴らしさを伝える組織体制、  
事業運営を推進し、事業の「ダウンサイジング」「改革」を継続し、執行部一丸となり、難局を乗り  
越えて「スノースポーツに感謝と感動を」をビジョンに事業運営を進めていくことを基本方針と  
すること。具体的には、公益法人としての活動の充実・強化、財政の健全化、組織運営の充実・強

化、事業運営の改革、指導員会・他団体との連携強化、人材育成への取り組みに関する説明が引き続き行われた。

②平成23年度予算案ガイドラインについて

金子理事より、平成23年度予算案ガイドラインの説明提案がなされ、承認された。

平成21年度の決算実績に基づきシュミレーションを実施。その結果、収支差異が合計で、マイナ1,660,350円の赤字になった。これを踏まえ、平成23年度の予算作成にあたり、平成22年度の行事参加状況、運営費用を考慮し、総務本部は収支差異を-75,000円となるよう65万円の改善を、教育本部は180万円となるよう40万円の改善を、競技本部が-1,72万5千円と53万5千円の改善を、それぞれ見直しを行い、収支均衡となるようにとの説明が行われた。

③公募について

徳本総務本部長より、次の項目について一括提案がなされ、下記の事項を入れることで承認された。

公募事業：北海道行事のツアー手配、海外行事のツアー手配、評議員会資料の印刷、SAKツールの印刷、SAKだよりの印刷について

・このうち、北海道行事のツアー手配の公募については前年度の実績を添付したほうがよい、海外行事のツアーについては過去10年間の実績の添付をして集まらない可能性があることも伝える必要があるのではないか、北海道行事のツアーでは札幌スティを入れるべきかどうか、その他旅行条件を整えてからきちんと公募をかけるべきではないか、公募の考え方について等の意見がだされた。

④ 県体協「東日本大震災の被災者の皆様に対する支援について（依頼）」について

徳本本部長より、県体協の義援金ルートについては県体協から神奈川新聞厚生文化事業団を経て、日本赤十字を通じて被災地へ届くとの説明提案がなされ、締切日が異なるため、県体協経由でなく、4月末に別ルートで義援金を拠出（60～70万円程度）することで承認された。

⑤ 資格停止解除申請者の研修費の徴収について

徳本本部長より、鎌倉スキー協会に所属していた橋紀典氏より海外勤務から帰国後、指導員資格復活請求があったが、不在の期間について、5年分の研修会費を納入することを条件としてよいかどうかの提案がなされ、制度ができる前から海外にいたので研修会免除願いをしなかった。研修費を免除することで継続してもらうことで一致し、承認された。

⑥ 東日本大震災以降のスキー及びスノーボード級別・ジュニアバジジテストの開催中止による認定料の返金について

金子理事より、3月11日以降について特例として報告のあったものに関しては返金する。返金方法は各協会から各所属団体へ返金をお願いする流れになることの提案がなされ、承認された。

#### 4) 監事意見

内海監事から、4月20日（水）にプレ監査を行う。震災の影響により各部門で返金等があると思われるので、行事毎とりまとめ、関係書類を提出してほしいとの発言があった。

また、井上監事から、資格停止解除規程について、規程は守る必要がある。規程以外については理事会で決定すればよいと思うが、規程ができる前に橋氏がどのような状況であったのか、確認する必要がある。これに対して、上田専務理事から、橋氏は規程ができる前に海外へ行ってしまったのは明らかであるとの説明があった。井上監事はこれにより、了承した。

議事の最後に山田副会長から来年度に向けていろいろあると思いますが、万全な準備をよろしく願いますとのお言葉があり、終了した。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記により署名する。

平成23年 4月27日

議 長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印